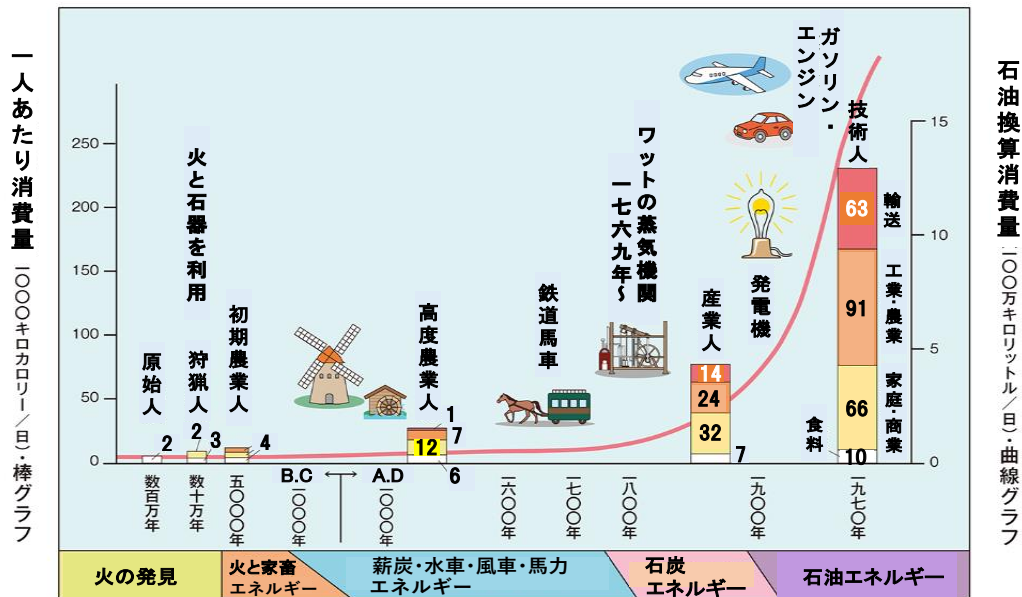


II-1-①古代～現代までのエネルギー史

人類とエネルギーの関係は約50万年前の火の利用が始まりとされています。

そして人類は、生活スタイルの発展段階に応じて、エネルギー利用の用途を徐々に高度化・多様化させてきました。

消費量もその用途拡大に加え、石炭や石油、天然ガスなどの普及により、上昇してきました。

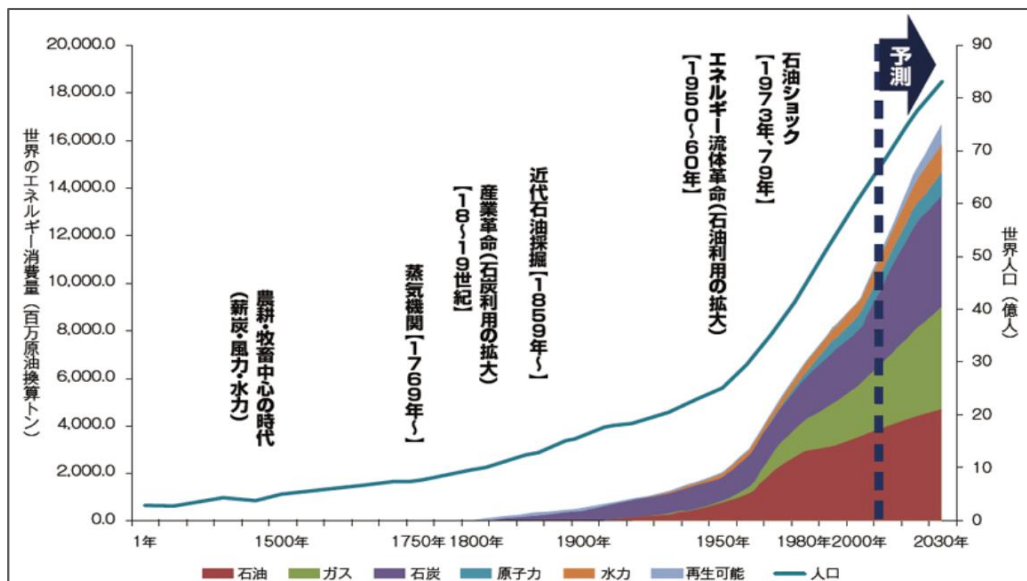


原始人 百年前の東アフリカ。食料のみ
 狩猟人 十万年前のヨーロッパ。暖房と料理にまいを燃やした
 初期農業人 B.C.5000年の肥沃三角州地帯。穀物を栽培し家畜のエネルギーを使った
 高度農業人 1400年の北西ヨーロッパ。暖房用石炭・水力・風力を使い、家畜を輸送に利用した
 産業人 1875年のイギリス。蒸気機関を使用していた
 技術陣 1970年のアメリカ。電力を使用、食料は家畜用を含む
 (出典)総合研究開発機構(エネルギーを考える)より作成

出典:エネ百科

人類が農耕や牧畜を始めたことで家畜や風力(帆船)を、穀物の製粉で水力や風力を、暖房には薪を利用しました。

18世紀、産業革命で石炭による工業化が進み、20世紀中頃には石油が大量に消費されました。また、電気の普及で生活水準や公衆衛生も向上し、人口と相まって、急激な増加となりました。



United Nations, "The World at Six Billion"
 United Nations, "World Population Prospects 2010 Revision"
 Energy Transitions: History, Requirements, Prospects
 BP Statistical Review of World Energy June 2012
 BP Energy Outlook 2030: January 2013

出典:エネルギー白書2013 第111-1-1